

# 576. 代数的分岐点ヲ有セザル Riemann 面ノ解析的表現

早田 文一

## (I) 解析的數式ヲ作ルコト

Parabolischer Typus の Riemann 面ガケヲ問題トスル。代数的分岐点ヲ有セザル Riemann 面  $F = \infty$  平面ノ有限部ガヲ寫像スル解析函数ヲ  $f(x)$  トスル。  $f(x)$  ハ *mehrfache Stille* ヲ持タナイノデアアルカラ、ソレニ由來スル *Anzahlfunktion*  $N_1(r)$  ハ恒等的  $= 0$  デナケレバナラナイ。

$$(I) \quad N_1(r) = 2N(r, f) - N(r, f') + N(r, \frac{1}{f'}) = 0$$

$2N(r, f) - N(r, f')$  ハ極ニ由來スル項デアアルカラ、コレヲ 0 ナラシムル爲メニ先ツ

(I)  $f(x)$  ノ極ヲ  $a_1, a_2, \dots$  トスレバ、コレ等ハ何レモ一 $\frac{1}{2}$ ノ極。

トイフ必要條件ガ出ル。次ニ (I) 式ノ終リノ項  $N(r, \frac{1}{f'})$  ヲ 0 ナラシムル爲メニ

(II)  $f'(x)$  ノ零點ヲ持タス。即チ  $\frac{1}{f'(x)}$  ハ整函数デアナケレバナラヌ。

今

$$\frac{1}{f'(x)} = g(x)$$

ト置ケバ

$$f(x) = \int \frac{dx}{g(x)}$$

積分ノ出発点ハ  $g(x)$  ノ零点以外ノ適當ノ点ナル。  $g(x)$  ハ (I), (II) ノ條件ヨリ  $a_1, a_2, \dots$  = 於テノミ零点ヲ有シ且ツコレ等ハ何レモ二位ノ零点ナルコトガワカル。ヨツテ

$$g(x) = \{g_1(x)\}^2$$

ト置ケバ、  $g_1(x)$  ハ整函数ガ  $a_1, a_2, \dots$  = 於テ一位ノ零点ヲ有スル。ヨツテ一先ツ次ノ結果ニナル。

punktierte Ebene ( $x \neq \infty$ ) ヲ  $f$  平面上ノ代数的余峽点ヲ有セザル Riemann 面 = 一對一 = 等角寫像スル有理型函ハ次ノ形ヲ有スル。

$$f(x) = \int^x \frac{dt}{\{g(t)\}^2}$$

コト =  $g(x)$  ハ次ノ性質ヲ有スル。

- i)  $g(x)$  ハ整函数
- ii) ソノ零点ハスベテ一位ナリ。
- iii)  $\{g(x)\}^{-2}$  ノ極ノ近傍 = 於ケル Laurent 展開ノ留数ハスベテ0ナリ。 (逆ニ勿論成立スル)

次 = 三ツノ條件ヲ形ヲ変更スル。  $g(x)$  ノ一ツノ零点ヲ  $a$  トスレバソノ近傍ノ Laylor 展開ハ

$$g(x) = g'(a)(x-a) + \frac{1}{2} g''(a)(x-a)^2 + \dots$$

但シ ii) ノ條件 = ヨリ  $g'(a) \neq 0$  ナラケレバナラヌ。コレヨリ

$$\frac{1}{g(x)} = \frac{1}{g'(a)(x-a)} \left\{ 1 - \frac{g''(a)}{2g'(a)}(x-a) + \dots \right\}$$

$$\left\{ \frac{1}{g(x)} \right\}^2 = \frac{1}{g'(a)^2(x-a)^2} \left\{ 1 - \frac{g''(a)}{g'(a)}(x-a) + \dots \right\}$$

$$= \frac{1}{g'(a)^2(x-a)^2} - \frac{g''(a)}{g'(a)^3(x-a)} + \dots$$

故 =

$$g''(a) = 0$$

即チ、 $g(x)$  ハ  $\infty$  ノ 零 点 = 於 テ、 $\infty$  ノ 第 二 次 導 函 数 が 必 ズ 0 ト  
 ナ ル ヲ 示 ス 整 函 数 デ ア ル。ヨ ヅ ヲ  $g''(x)/g(x)$  ナ ル 商 ヲ 作  
 ツ テ 見 ル ト、 $g(x)$  ノ 零 点 = 於 テハ、零 点 が 一 位 デ ア ル 故 =  
 一 定 ノ 値 ヲ 有 ス ル。即 チ 商 ハ  $x$  平 面 ノ 全 有 限 部 分 デ 有 限 ナ 数  
 値 ヲ 有 ス ル 故 = 整 函 数 デ ナ ケ レ バ ナ ラ ナ イ。コ レ ヲ  $P(x)$  ト  
 ス レ バ

$$(2) \quad \frac{d^2 g}{dx^2} = P(x) \cdot g$$

即チ 上 述 ノ 三 ツ ノ 性 質 ヲ 具 備 シ テ キ ル 解 析 函 数 ハ (2) ノ 形 ノ  
 微 分 方 程 式 = 於 イ テ  $P(x)$  = 適 當 ナ 整 函 数 ヲ 入 レ タ 場 合、微  
 分 方 程 式 ノ 解 = ナ ツ テ キ ル ヲ ケ デ ア ル。

又 逆 = 斯 様 ナ 微 分 方 程 式 ノ 解 ハ 常 = 上 ノ 三 ツ ノ 性 質 ヲ 持  
 ツ テ キ ル。ソ レ が 整 函 数 デ ア ル コ ト ハ 微 分 方 程 式 ノ 形 ヲ 容  
 易 = ワ カ ル。零 点、一 位 デ ア ル コ ト ハ *linear, homogen*  
 ナ 二 次 微 分 方 程 式 ノ 解、一 般 的 性 質 デ ア ル。零 点 ノ 近 傍 = 於  
 ケ ル  $\{g(x)\}^{-2}$  ノ *Laurent* 展 開 デ 留 数 が 0 = ナ ル コ ト  
 モ 亦 明 カ デ ア ル。従 ツ テ  $P(x)$  = 勝 手 ナ 整 函 数 ヲ 入 レ タ ト キ  
 (2) ノ 解  $g(x)$  ヲ 以 テ  $f(x)$  ヲ ヅ ク レ バ コ ノ *Riemann* 面 ハ 代

數的合歧点ヲ有セザルモノデアル。

## (II) 微分方程式ノ二三ノ性質

微分方程式

$$\frac{d^2g}{dx^2} = P(x) \cdot g \quad P(x); \text{ 整函数}$$

i) *Fundamentallösungen* ヲ形成スルニツノ解

$g_1(x)$  ト  $g_2(x)$  トハ共通根ヲ持タナイ。

何トナレバ  $C_1, C_2$  ヲ共ニ  $0$  デナイ常数トシテ

$$g(x) = C_1 g_1(x) + C_2 g_2(x)$$

ナル解ヲ作ル。  $g_1(a) = 0$   $g_2(a) = 0$  デアレバ勿論

$$g(a) = C_1 g_1(a) + C_2 g_2(a) = 0$$

次ニ  $g_1'(a) \neq 0, g_2'(a) \neq 0$  デアルカラ

$$g'(a) = C_1 g_1'(a) + C_2 g_2'(a) = 0$$

トナルヤウニ  $C_1, C_2$  ガエラベル。  $g(x)$  ハ  $x=a$  ヲ少クモニ  
位ノ零點ニ持ツコトトナラカラ、ソレハ恒等的ニ  $0$  デナケレ  
バナラヌ。  $C_1 = C_2 = 0$  (矛盾)

ii)  $g_1(x), g_2(x)$  ハ同一ノ  $x = a$  對シテソレラノ對數的  
導函数ガ等シクナルコトハナイ。

何トナレバ同時ニ  $0$  デナイ様ニ  $C_1, C_2$  對シテ

$$g(a) = C_1 g_1(a) + C_2 g_2(a) = 0$$

$$g'(a) = C_1 g_1'(a) + C_2 g_2'(a) = 0$$

トナルヤウナ  $a$  ガ存在シテ、ハナラナイ。

依ツテ

$$\begin{aligned} \begin{vmatrix} g_1(a) & g_2(a) \\ g_1'(a) & g_2'(a) \end{vmatrix} &= g_1(a)g_2'(a) - g_1'(a)g_2(a) \\ &= g_1(a)g_2(a) \left\{ \frac{g_2'(a)}{g_2(a)} - \frac{g_1'(a)}{g_1(a)} \right\} \neq 0 \end{aligned}$$

即チ  $g_1(x), g_2(x)$  の零点以外、 $x \neq a$

$$\frac{g_1'(x)}{g_1(x)} \neq \frac{g_2'(x)}{g_2(x)}$$

iii)  $P(x)$  が  $m$  次、有理整函数ナルトキ  $g(x)$  の階数  $\frac{m+2}{2}$  なる有限階超越整函数 = ナル。コレ = 関シテハ Einar Nille の研究 = ヨリ詳シク知レテキル。

iv)  $P(x)$  が超越整函数ナルトキ  $g(x)$  の無限階超越整函数 = ナル。コレハ iii) の結果 = 於テ  $m \rightarrow \infty$  ナラシムレバ、

$g(x)$  の階数  $\infty$  = 近ヅクコトヨリ容易 = 想像キレルコトガアルガ、次ノ様 = シテ厳密 = 証明スルコトが出来ル。

全有限平面デ有理型ナル函数ノ對數的導函数ノ Schmiegungsfunktion = 関スル定理ヲ使フ。

今斯様ノ函数ヲ一般 =  $f(x)$  トスルト若シ  $f(x)$  が有限階ノ函数ナルトキハ

$$m\left(r, \frac{f'}{f}\right) = O(\log r)$$

ヨツテ  $g(x)$  ヲ微分方程式ヲ満足スル有限階函数トスレバ  $g(x)$  ト同時 =  $g'(x)$   $\in$  亦有限階ナルカラ

$$m\left(r, \frac{g'}{g}\right) = O(\log r)$$

$$m\left(r, \frac{g''}{g'}\right) = O(\log r)$$

$$\frac{g''}{g} = \frac{g'}{g} \cdot \frac{g''}{g'} \quad \text{アアルカラ}$$

$$m\left(r, \frac{g''}{g}\right) \leq m\left(r, \frac{g'}{g}\right) + m\left(r, \frac{g''}{g'}\right) = O(\log r)$$

$P(x)$  ハ整函数アアルカラ

$$T(r, P) = m(r, P) = m\left(r, \frac{g''}{g}\right) \leq O(\log r)$$

故 = 適當ナ常数  $k$  = 對シテ

$$\lim_{r \rightarrow \infty} \frac{T(r, P)}{\log r} < k$$

コレハ  $P(x)$  が有理函数、コノカハ特 = 有理整函数アアルコトヲ示ス。故 =  $P(x)$  ヲ超越整函数トスレバ  $g(x)$  ハ無限階整函数ヲナケレバナラナイ。

### (III) Defekt, 問題

(I) デ問題トシテ函数  $f(x)$  ノハ常 =  $N_1(r) = 0$  アアルカラ、ソレ = 就イテハ第二定理 (2. Hauptsatz) ハ次ノ様 = ナル。

$$(3) \quad \sum_{\nu=1}^g m(r, a_\nu) < 2T(r) + S(r)$$

斯様ナ函数 = ツイテハスベテノ defective Werte = ワタル Defekt, 和  $\sum_{\nu=1}^g \delta(a_\nu)$  が最大値 2 = 達スルコトが  $N_1(r) \neq 0$  ナル函数

ヨリモ多ク期待セラレル。周知ノ實例

$$f(x) = \int_0^{\infty} e^{-t^q} dt$$

テハ  $f = \infty$  トスベテノ有限ナ Zielwert = マスル  $d$ defekt  
ノ和ハ實際 2 = ナル。コノ函数ハ階数  $q$  デアルガ  $g(x) = e^{\frac{1}{2}x^q}$   
デアルカラ

$$P(x) = \frac{q(q-1)}{2} x^{q-2} + \frac{q^2}{4} x^{2q-2} \quad (2q-2 \text{次})$$

即チ  $f(x) = \int_0^x e^{-t^q} dt$  ハ  $P(x)$  ヲ上ノ様 = トツタトキノ微  
分方程式ノ解  $g(x) = e^{\frac{1}{2}x^q}$  ヨリ作ラレ、ソノ gesamtdefekt  
丁度 2 = ナツヲキル。

第二定理(3)ハ defekte Werte ノ數ガ可附番無限マ  
デタクアルコトヲ許スノデアルガ、コノ實例ハ未ダ一ツモ知  
ラレテキナイ。

既ニ Literatur = 見エル實例

$$(4) \quad f(x) = \int_0^{\infty} e^{e^t} dt$$

テハ正ノ  $d$ defekt ヲ有スル値ハ  $f = \infty$  レツデアルカラ  
gesamtdefekt ハ 1 デアツテ 2 = 違シナイ。コノ例テハ

$$g(x) = e^{-\frac{1}{2}e^x}$$

$$P(x) = \frac{1}{4}e^{2x} - \frac{1}{2}e^x$$

Picard ノ除外値ノ概念ハ Borel ノ除外値ノ概念 =  
拡張セラレ、コレハ更ニ Nevanlinna ノ defekter Wert

ナル概念 = 拡張セラレタノデアルガ、除外値ノ知ラレテキル  
實例ハ何レモソレヲ有限個シカ持ツテキナイ。即チ第ニ定  
理 = 関 $\rightarrow$ テハ實例ヨリモ理論ノ方が遙 = 遙 $\rightarrow$ デアルト見ルコトが  
出來ル。

無數 = 多ク除外値 (defekter Wert) ノアル實例ヲ作  
ルコトハ現今一般 = ムツカシイト信ゼラレテキル。 *unangreifbar*  
*heim gegenwärtigen stande der Wissenschaft*  
ト云フ程デアハナクトモ困難 = 相違ナイ。然シテラ *defekter*  
*Wert* ハ *Umkehrfunktion* ノ *direkt kritische*  
*Singularität* デアルトイフ予想 (Nevanlinna-  
Ulrich) ヲ正シイトスレバ、コレト *ahlfors* ノ定理 (階  
數  $\rho$  ナル全有限平面 = 於テ有理型ナル函数ノ *Umkehrfunktion*  
ノ *direkt transzendente Stelle* ノ數ハ  $2\rho$  ヲ超ヘナ  
イ) トカラ *defekte Werte* ヲ無數 = 持ツ函数ハ無限階デア  
ナケレバナラナイ。

而シテ *gesamtdefekt* が 2 デアレバスベテ *Stelle* ノ  
*Verzweigungsindex* が 0 デアルカラ  $N_1(r) = 0$  ナル  
函数デアナケレバナラナイ<sup>2)</sup>。コレヨリ以上ノ様ナ性質ヲ有スル  
函数  $f(x)$  ハ  $P(x)$  ヲ超越整函数トシタトキノ微分方程式ノ  
解  $g(x)$  ヲ作ラレル筈デアアルトイフコトが出來ル。

但シ、ソレハ單 = 存在スル関連性ヲ意味スルダケテ實際  
コノ方法ヲ出來ネバナラヌト云フノデアハナイ。コノ方法ヲウ  
マク行クヌメ = ハ微分方程式ノ積分 ( $P(x)$  が超越函数ナル  
場合) 々無限階函数 = 関スル知識ノ増大が先決問題デア



ル。

註1)  $f(x) = \int \frac{dt}{\{g(t)\}^2}$  , Schwarz, 導函数ヲ作ツテ見ルト

$$\frac{f''(x)}{f'(x)} - \frac{3}{2} \left\{ \frac{f''(x)}{f'(x)} \right\}^2 = -2 \frac{g''(x)}{g(x)} = -2P(x)$$

トナル。

註2) Verzweigungsindex の Charakteristik  $\Gamma(r)$   
ヲ單位トシテ量ルノヲアルカラ  $V. Index$  が0トナ  
ルタ  $x = 1$  必ズ  $\exists \epsilon N_1(r) = 0$  ナルヲ要シナイノヲア  
ルガ  $N_1(r) = 0$  ナルトキ最モ大キト確率ヲ以ツテ  
*gesamtdefekt* が2トナルコトが期待サレル。然  
シテカラ  $f(x) = \int_0^x e^{e^t} dt$  ナルヤウナ例モアルカラ  
絶對的ニハ期待出来ナイ。  $P(x)$ ヲ原点ニ對シテ非對  
稱性ノモット多イ整函数ニエラバナケレバナラナイ。